（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和8年8月30日※1
（前回公表年月日：令和7年9月30日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
米田柔整専門学校	平成6年4月1日	山本　啓司	〒451-0053 名古屋市西区枇杷島二丁目3番13号 （電話）052-562-1210
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人米田学園	平成9年4月1日	米田　忠正	〒451-0053 名古屋市西区枇杷島二丁目3番13号 （電話）052-562-1210

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	柔道整復科第1部	平成6年文部科学省 告示第84号	

学科の目的	本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法及び柔道整復師法に従い、柔道整復に関する知識及び技能を習得させ、有能なる柔道整復師を養成することを目的とする。
認定年月日	平成28年2月19日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2755	2065		180		510
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240	212	0	10	65	75

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有　］ ■成績評価の基準・方法 成績評価について 1．学業成績は、定期考査ごとに各学科担当教員から教務主任が報告を受け教務会において評価する。成績の評価は授業の年間定期考査総合平均点が100点満点換算で、60点以上を合格とする。 2．学籍簿の記載方法は、科目ごとの点数を記入して保管する。 成績証明書発行時の評定は A 100～80 点 B 79～ 70 点 C 69～65 点 D 64以下
長期休み	夏季休業日：8月中旬 冬季休業日：12月下旬～翌年1月初旬 春季休業日：修了式後～3月末	卒業・進級条件	進級・卒業の認定について 進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得ならびに出欠状況等により教務会の議を経て校長が認める が、次の各項に該当する者は原級留置とする。 1）進級認定 教務会の議を経て校長が認可 する 。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。 （1）1年間で出席しなければならない日数の 3 分の 2 以上を出席していない者 （2））学則に掲げる各授業科目の出席時間数が授業時間数の3分の2に満たない者 （3）当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者 （4） 期日までに所定の学費を納入しない者 （5 ）その他校長が裁定した者 2）卒業認定 教務会の議を経て校長が認可 する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。 （1）1年間で出席しなければならない日数の3 分の 2 以上を出席していない者 （2））学則に掲げる各授業科目の出席時間数が授業時間数の3分の2に満たない者（3）卒業までにすべての単位を修得していない者 （4）公益財団法人 柔道整復研修試験財団 が実施している認定実技審査に合格していない者 （5）期日までに所定の学費を納入しない者）期日までに所定の学費を納入しない者 （6）その他校長が裁定した者

<table>
<tr><td>学修支援等</td><td>■クラス担任制:　有
■個別相談・指導等の対応
・担任による電話連絡、本人
・保護者との面接の実施</td><td>課外活動</td><td>■課外活動の種類
・校内柔道大会　・スポーツ大会の開催
・西区柔道大会
・東海学術大会
■サークル活動:　有</td></tr>
<tr><td>就職等の状況※2</td><td>■主な就職先、業界等(令和7年度卒業生)
接骨院、病医院、介護施設(デイサービス)等
■就職指導内容
個別面談および合同就職説明会を開催
令和7年6月8日(土)、65企業が参加
令和7年10月26日(土)、50企業が参加
■卒業者数 : 61 人
■就職希望者数 : 60 人
■就職者数 : 60 人
■就職率 : 100.0% %
■卒業者に占める就職者の割合 : 98.4% %
(令和 7 年度卒業者に関する
令和8年5月1日 時点の情報)</td><td>主な学修成果(資格・検定等)※3</td><td>■国家資格・検定/その他・民間検定等
(令和7年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)
<table>
<tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr>
<tr><td>柔道整復師免許</td><td>医療</td><td>61</td><td>56</td></tr>
<tr><td>機能訓練指導員</td><td>医療</td><td>61</td><td>56</td></tr>
<tr><td>JATI-ATI
日本トレーニング指導者協会
認定 トレーニング指導者</td><td>医療</td><td>9</td><td>9</td></tr>
<tr><td>スポーツ医学検定 1級</td><td>医療</td><td>6</td><td>4</td></tr>
<tr><td>スポーツ医学検定 2級</td><td>医療</td><td>13</td><td>9</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>中途退学の現状</td><td colspan="3">■中途退学者　12 名　■中退率　5.9 %
令和7年4月1日　在学者　205　名　(令和7年4月1日入学者含む)
令和8年3月31日　在学者　193名
■中途退学の主な理由
一身上の都合、学業不振、進路変更等
■中退防止・中退者支援のための取組
個別面談の実施
補充講義によるサポート
サークル活動、スポーツ活動を通じての関係性強化
学生カンファレンスの実施</td></tr>
<tr><td>経済的支援制度</td><td colspan="3">・特待性精度
成績特待生(受験生):一般入学試験(入試第2回)の合格者より成績優秀者10名以内に対して成績特待生として初年度の前期授業料のうち200,000円免除。
成績特待生(在校生):年間成績優秀者3名以内に対して成績特待生として次年度の後期授業料のうち最高200,000円免除。

・支援制度
社会人支援:既卒者には初年度の前期授業料のうち120,000円を免除。
引越し支援:新卒者の方で入学後に保護者と別住所に住む際に初年度の後期授業料のうち120,000円を免除。
ひとり親家庭支援:新卒者でひとり親家庭の方は初年度の後期授業料の内、120,000円を免除。
扶養者支援:入学の前年に配偶者控除もしくは扶養控除を受けられた方は初年度の授業料の内120,000円を免除。
柔道支援:柔道経験者で適用になれば新卒者には初年度の前期授業料のうち240,000円を、既卒者には、初年度の後期授業料のうち240,000円を免除。
各制度は併願可能。ただし、併用の場合は上限を各期360,000円とする。

・高等教育の修学支援制度

・奨学金を仲介
日本学生支援機構
日本政策金融公庫[国の教育ローン]</td></tr>
<tr><td>第三者による学校評価</td><td colspan="3">平成30年度に柔道整復研修試験財団による第三者評価を実施。
令和8年度11月に一般社団法人 柔道整復教育評価機構による第三者評価を実施予定。</td></tr>
<tr><td>当該学科のホームページURL</td><td colspan="3">URL:http://yoneda.ac.jp</td></tr>
</table>

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編制委員会において審議された企業等からの要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編制に努める。特に関連団体である愛知県柔道整復師会や開業されている柔道整復師からの意見を中心に職業教育にマッチングした教育課程となるよう改善を進めていく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・本校が実践的かつ専門的な職業教育を実施する為に企業等との連携を通じて必要な情報の把握,分析を行い教育課程の編成に活かす事を目的とする。教育課程編成委員は米田柔整専門学校の業務改善部として授業科目の開設のみならず多岐に渡って教育内容の質向上に貢献するものであり、委員会と米田柔整専門学校の意見をもとに教育課程の意思決定を行うものとする。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
森川　伸治	公益社団法人　愛知県柔道整復師会	2025/5/1～2027/4/30	①
竹中　敬一郎	株式会社　健生カルティベイト	2025/8/1～2027/7/31	③
伊藤　勝廣	株式会社　泰壽	2025/8/1～2027/7/31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　8～9月　2～3月

（開催日時（実績））

第1回　平成26年10月1日　13:40～14:10	第9回　平成30年9月11日　13:30～14:00	第17回　令和4年8月23日　14:50～15:50
第2回　平成27年1月28日　13:30～14:30	第10回　平成31年3月28日　13:30～15:00	第18回　令和5年3月31日　14:50～15:50
第3回　平成27年7月8日　14:10～14:30	第11回　令和元年8月27日　13:30～15:00	第19回　令和5年8月28日　14:45～16:15
第4回　平成27年8月25日　14:00～14:30	第12回　令和2年3月25日　14:45～15:45	第20回　令和6年3月27日　14:45～15:35
第5回 平成28年8月30日　14:00～14:30	第13回　令和2年8月26日　14:45～15:45	第21回　令和6年8月30日　14:45～15:45
第6回 平成29年3月16日　13:30～14:00	第14回　令和3年3月23日 14:45～16:00	第22回　令和7年3月24日　14:45～15:45
第7回 平成29年8月31日　13:30～14:30	第15回　令和3年8月27日　14:45～15:50	第23回　令和7年8月26日　14:45～15:45
第8回　平成30年3月22日　13:30～14:00	第16回　令和4年3月23日　14:40～15:45	第24回　令和8年3月27日　14:40～15:40

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・第1回の会議にて平成28年度からの午前コース新規開設について意見を賜った。
本校としては社会人のニーズ、他医職種取得者の獲得の狙いがあり積極的に進めたいと考えているが、問題点として全体の講義数の減少があげられてた。特に専門分野の基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技の減少について、委員からは講義時間数減少による学生への対策は考えているかと意見があり、カリキュラムの見直しを再度行うこととした。また補充講義にて補っていく旨も伝えた。現在28年度のカリキュラムを作成中である。

・第2回会議では学外実習について議論が交わされた。
柔道整復師の業界では学外実習は法制化されていないため、実際に行うにあたっては事前準備をしっかりと行い、対象となる接骨院と密に連携をとっていく必要性を示唆された。第4回会議にて再度議題にあげて、学外実習を行う準備を進めている。

・第3回会議では講義内容について触れたが、委員からは講義も大切だが現場に出ている卒業生の中には医療人としてモラルが欠除している人もいるため、学校にて社会人、医療人としてのマナーや接遇を重要視して教育するよう意見を頂いた。それを受けて、専門基礎分野の柔道整復実技の実技試験のなかで接遇の評価項目を重要視するよう再認識することとなった。

・第4回会議では学外接骨院実習に対する意見交換が行われ、対象学年、時期、時間、日数について概要が決定した。特に意見として多かったのが、受け入れ先の接骨院の選定についてであった。接骨院の質も多様化しているため選定には十分留意し、適切な施設に学生を預けてほしいと要望があった。また学外実習を行うにあたって医療面接の基礎教育の重要性を強調された。

・第5回会議では職業実践専門課程の認可の報告があった。さらに新カリキュラムの改定案も示され、大幅な改革に困惑した状況であった。話題の中心は依然として臨床実習であり、具体的内容については今後更に検討する事となった。

・第6回会議では実習の時間について検討を行った。実際の実習を想定すると1日あたり何時間が適当か。また午前午後をわけた場合にお昼休みをどのように活用すべきかについて様々な意見が交換された。最終的には学校での準備が非常に重要だと再認識する形となった。

・第7回会議では実習の評価方法について検討を行った。評価方法についてはある程度学校協会を中心として一元化されたものがあると良いと指摘があった。いただいた意見をもとに評価表を再度検討することとなった。

・第8回会議では臨床実習指導者講習会の概要も報告された。また同意書の問題や評価表の具体的内容に対しても意見が交わされた。

・第9回会議では新カリキュラムにおける臨床実習についての報告、検討があった。学校内における事前実習の重要性に対する指摘があったため、今後学内での臨床実習の準備(接遇を重要視)を再度見直して、学外に出しても恥ずかしくない学生の育成を行っていく。

・第10回会議では夜間部の存続について検討がなされた。委員会では存続の声が根強くあったためその方向で舵をとることとなった。また、夜間部の開始時間は現在の17時よりも18時の方がよいと意見がでたが、現状時間変更はしていない。また、土曜日に対する検討もなされ、現在の高校生のリズムに合わせて土曜日は休みとすることが決定された。

・第11回会議では今後の実技教育の在り方が検討された。その中でも超音波検査機器(エコー)の取り扱いについて愛知県柔道整復師の会長よりエコーの取り扱いには十分注意して、けっして診断の材料にはしてはならない。補助的な位置づけを強調するとご指摘があった。また、本校は外傷にしっかりと対応できる柔道整復師を育成することを第一としている。そのため包帯技術の向上は引き続き継続していくべきであるとご示唆いただいた。

・第12回会議では臨床実習の在り方、コアカリキュラム、学生の質保証について意見交換がされた。臨床実習を終えた学生の90%が柔道整復師になりたいというアンケート結果があったため、今後臨床実習の内容についてさらに充実させることが重要であると再認識された。また今後の課題としてカリキュラムを消化すると同時に、職業倫理や教養を養うことが求められた。

・第13回会議では認定実技審査と臨床実習について意見交換がされた。新型コロナウイルス感染症の影響で対面での認定実技、臨床実習が行えない状況下で、Zoomを用いてオンライン臨床実習を行った。一定の効果が得られたため、今後も継続する方向で一致した。また、実習内容に関しては実務的な内容よりも倫理的な内容の実習を示唆されたため今後の判断材料としていく。さらに子供の診察など、テーマを絞った実習の必要性を示唆いただいた。

・第14回会議では新型コロナウイルス感染症に対する対応の報告とオンライン臨床実習に対する試みが報告された。検討事項としてはICT化の流れを組んで本校においてもタブレット端末を学生に配布し、教科書を電子化する試みに対して意見交換され、次年度以降前向きに準備していくこととなった。

・第15回会議では保険請求について意見交換が行われ、接骨院実習において保険請求の仕組みについて学生に説明する必要性が検討された。
さらに施術録への記載の重要性が再確認されたため、実習においてしっかりと教育していくこととする。

・第16回会議ではコロナ禍での実習に対してZoomの活用が議論された。対面に勝ることはないが、複数名の学生を一度に相手できるのはメリットであると示唆された。今後はZoomと対面を両方ともに使用したハイブリッドの実習を軸として進めていくこととした。

・第17回会議では基礎科目の見直しについて議論した。今後ICT化の波が加速することも見据えてワード、エクセル、ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄなどのオフィス系のソフトの基礎技術を修得するプログラムなどが推奨されたため、今後検討材料とすることとなった。

・第18回会議では学生の到達目標が提示され、意見交換が行われた。外傷がしっかりと診れる柔整の育成を基盤として時代に合わせた柔軟性も持ち合わせていく必要性を感じた。また退学率の低下についても議論され、一つ一つの退学事案について徹底的に原因を分析する必要あると示唆された。

・第19回会議では米田柔整の今後の進むべき方向性が話し合われた。本質的には柔整の仕事はやりがいがあって楽しいが学生に魅力を伝えきれていない現状がある。外傷を軸として、スポーツトレーナーや介護など学生のニーズに合わせて魅力を発信していくことが共有された。

・第20回会議では現在、学校協会等で検討中の新カリキュラム案について議論した。今後は機能訓練指導士としての柔道整復師の需要が高
・第22回会議では、臨床実習先における学生の身だしなみや言葉遣いについて検討が行われた。多様性への配慮が求められる一方で、医療従事者として患者から信頼される身だしなみや適切なコミュニケーション能力の重要性が確認された。また、人口減少や外来患者数の減少が見込まれる中、柔道整復師の活躍の場として介護保険分野への参入が重要であり、名古屋市における訪問サービス事業の拡大を踏まえ、介護分野で活躍できる人材育成の必要性について議論された。

・第23回会議では学校協会の新カリキュラム改定に向け、超音波観察装置の活用、機能訓練指導員としての役割、災害医療への対応を教育内容に取り入れる方針が報告された。また、学校独自カリキュラムとして基礎・専門基礎分野を見直し、体表解剖や触察能力、国家試験対策を強化するため柔道整復学を充実させる方針について意見交換が行われた。

・第24回会議では国家試験結果や新カリキュラム案が報告され、卒業時に必要な能力（判断力・初期対応力・コミュニケーション能力など）を重視した教育の方向性について協議が行われた。委員からは、基礎的な固定技術や問診力、人間性、多職種連携能力の重要性が指摘され、国家試験対策だけでなく卒業後も成長できる柔道整復師の育成が必要との意見が示された。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

校外実習については医療施設において地域に根ざした医療施設であって、最新の画像診断機器（MRI、CT等）を利用しての画像観察、リハビリ室内の理学療法・評価や固定の確認、電子カルテのしくみや電子媒体の保存方法について電子カルテを用いたチーム医療の考え方を学ぶのに最適な施設を選定している。また接骨院実習においては卒業生とのネットワークを生かし、地域に根差して施術を行っている施設を選定し、良好なコミュニケーションをもとに相互連携の形で実習を行っている。

校内実習では日々進歩する医療に対応するため、医療の最前線で活躍している臨床経験が豊富な柔道整復師で、厚生労働大臣の指定した教員講習会を修了した者を講師に選定している。また、校内の実習施設では外部に出しても恥ずかしくない学生を育成するために接遇を中心に実習を行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

〔1年生〕米田接骨院、米田病院、学内にて対面による実習を実施した。
・米田接骨院：令和7年5月11日～令和8年2月15日
・米田病院：令和7年8月2日～令和8年9月20日
・学内対面：年間で臨床実習指導者外部講師と専任教員が実施
〔2年生〕介護実習は学外の介護7施設にて実施した。接骨院実習は学外の10施設にて
実施した。よねだ整形リハビリクリニック実習を実施した。
・介護実習：令和7年5月31日～令和7年11月1日
・学外接骨院：令和7年7月9日～令和7年12月2日
・よねだ整形リハビリクリニック：令和7年10月2日～11月29日
〔3年生〕米田病院、学外（整形外科）、学内にて対面による実習を実施した。
・米田病院：令和7年5月19日～令和7年8月8日
・学外実習：令和7年7月12日～令和7年8月30日
・学内実習：年間で臨床実習指導者外部講師と専任教員が実施した。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床実習	森川接骨院
臨床実習	臨床実習	石川接骨院 土橋
臨床実習	臨床実習	山北接骨院
臨床実習	臨床実習	デイサービスぜっとわん
臨床実習	臨床実習	ハートランド熱田デイサービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・教員の資質の向上を図る為、学会及び業界団体を中心とする研修会、勉強会に参加し、専門知識・技術 の修得に努める。研修を受講するにあたっては、本校の基本理念を十分に認識し、業務遂行に必要な知識の向上、技能を習得させ能力の向上を図るものとする。それにより、優れた創造力と合理的判断力、併せて旺盛な実行力を涵養し、積極的な指導力を有する教職員を養成する。教員研修等に係る諸規程に定めるように研修は年間スケジュールに組み込み、計画的に行われるように準備する。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

＜学術大会＞

対象：第49回東海学術大会静岡大会
内容：東海4県(愛知・岐阜・三重・静岡)を中心とした柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成26年11月16日
連携内容：本校学生による学術発表を行っているため東海4県の柔道整復師会とは前向きな連携を行っている。
①「上肢損傷における患肢管理の一方法とその使用マニュアル」 小川直人
②「柔道競技における母指外転制動を目的とした包帯の一例」 木村享央
③「上肢segment-pointer muscle（key muscle）の文献的考察」 重村太一郎

対象：第23回日本柔道整復接骨医学会学術大会
内容：全国的な柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成26年11月29日～30日
連携内容：本校理事長（米田忠正）が副会長を務めているため、日本柔道整復接骨医学会とは学術大会を通して連携を行っている。

対象：第50回東海学術大会愛知大会
内容：東海4県(愛知・岐阜・三重・静岡)を中心とした柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成27年12月6日
連携内容：本校学生（8名）による学術発表を行った。教員は座長として参加。東海4県の柔道整復師会とは前向きな連携を行っている。
①柔道整復師に柔道は必要か 奥村裕明，外園良輔，高木俊紀
②女性が行うラックマンテスト再現率100%をめざして～関節副運動の視点から～ 三保雅子、野田真子
③クアドリラテラルスペースの触り方について 清水美雪 桐山広大
④介護施設でのシーティングと他職種連携の重要性について 川村展弘
⑤某高校サッカー部におけるシンスプリントの現状について 椎原悠達・村田皓平
⑥投球時痛を訴える元投手の肩関節痛に対する一考察 北野裕起，大橋正太郎
⑦トランペット奏者で経験したミュージシャンハンドの一例 林 創一
⑧鎖骨骨折に対する就寝方法と固定 ― 鎖骨骨折を経験して感じた事を改善 ― 萬代 勇，冨田 幸助

対象：第51回東海学術大会岐阜大会
内容：東海4県(愛知・岐阜・三重・静岡)を中心とした柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成28年11月6日
連携内容：本校学生（5名）による学術発表を行った。教員は座長として参加。東海4県の柔道整復師会とは前向きな連携を行っている。
①野球部における指損傷の実態調査と初期処置への提言 北山 淳、梶田 俊
②バレーボールにおける肩関節疾患の観察と病態推測 山田 隼也
③lift－off テストの一考察 ～施行時の注意点を中心に～ 廣瀬 嵩馬
④母指MP関節橈側々副靭帯損傷の自験例 伊藤 進
⑤手舟状骨と月状骨間の触察方法についての一考察 ～短橈側手根伸筋腱と示指の伸筋腱間隙を目安として～ 神田篤志

対象：第52回東海学術大会三重大会
内容：東海4県(愛知・岐阜・三重・静岡)を中心とした柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成29年12月3日
連携内容：本校学生（1名）による学術発表を行った。教員は座長として参加。東海4県の柔道整復師会とは前向きな連携を行っている。
①Shimizu 反射について ～その評価における一考察～ 小嶋 裕

対象：第53回東海学術大会 静岡大会
内容：東海4県(愛知、岐阜、三重、静岡)を中心とした柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成30年12月3日
連携内容：本校学生(4名)による学術発表を予定。教員は座長として参加。
①自験例における肩関節機能低下への対応 ～内旋筋力へのアプローチ～ 青山和希
②踵腓靭帯の機能不全の評価方法について～徒手検査における一考察～ 深田 環、丸山烈生
③膝の前外側靭帯について ～前十字靭帯の再建術を受けたクラスメイトの事例から～ 間所隆太、田中佐和
④柔道整復分野の研鑽の指向性に関する研究 ～2年目現職者と学生の傾向を比較～ 加藤崇紘
令和元年、令和2年、令和3年は新型コロナウイルス感染症のため中止。

対象：第27回日本柔道整復接骨医学会学術大会 愛知大会
内容：全国的な柔道整復業務に関する学術大会
期間：平成30年11月17日～18日
連携内容：本校理事長(米田忠正)が副会長を務めているため、日本柔道整復接骨医学会とは学術大会を通して連携を行っている。
教員の島が研究発表。

研修名：第41回日本整形外科スポーツ医学会
日時：平成30年9月7日～9日
出席者数：1名（うち専任教員数1名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
研修概要（連携先企業等、期間等）：医師やコメディカルが参加する学会で最新のスポーツ医学を学ぶ。また米田病院のスタッフの共同演者として教員の島が参画している。

研修名：第5回転倒予防学会
日時：平成30年10月5日
出席者数：1名（うち専任教員数1名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
研修概要（連携先企業等、期間等）：医師やコメディカルが参加する学会で最新の転倒予防医学を学び、教員の島が転倒予防指導士としての見分を深めた。

研修名：公益社団法人日本柔道整復師会　第54回 東海学術大会静岡大会
出席者数：3名（うち専任教員数3名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数61名）
日　時：2019年11月17日（日）
連携内容：本校学生(4名)による学術発表を予定。教員は座長として参加。
発表1　前腕屈側における深指屈筋々腹の触知について～超音波画像観察装置による調査結果～　古井戸康雄，本坊隼人
発表2　肩関節前方脱臼後の不安定感について
～肩部に外傷歴のあるクラスメイトの事例から～　神野未来，仲野翔太
発表3　内反肘による尺骨神経障害について
～同級生の事例から～　岩井拓磨，上山佳紀
発表4　先天性腓骨筋腱脱臼の自験例から　幾世卓真

研修名：日本転倒予防学会　第10回学術大会
日時：令和5年10月8日(日)
講師、内容：大会テーマ「新しい転倒予防」
少年柔道教室での子どもロコモに関する取り組み～柔軟性改善に着目して～大橋　礼明（医療法人米田病院）
連携内容：共同演者として本校教員：島が参加して、転倒予防指導士としての知見を深めた。

研修名：公益社団法人日本柔道整復師会　第56回東海学術大会三重大会開催
日時：令和5年10月28日（土）29日(日)
講師、内容：会員研究発表 演題:(5題)
体表解剖セミナー 三重県 堀 智秋 会員 演題:「膝蓋上嚢の解剖と触察」
一般公開講座（特別講演）三重県立総合医療センター脳神経外科部長 亀井 裕介 先生　演題:「頭部外傷と脊椎外傷」
連携内容：学生1名を引率して、校長、教務島が参加した。頭部外傷は学校安全においても重要な課題であるため、専門家の知識をご教授いただき、知識の再確認をすることができた。

研修名：第32回日本柔道整復接骨医学会　学術大会
日時：令和5年12月 2日（土）～3日（日）
講師、内容：臨床と学術の融合 ～Head,Neck＆Trunk ver.～
特別講演　首下がり、腰曲がり、そして難治性の痛み：そのメカニズムと治療　昭和大学　豊根　知明
シンポジウム 「柔道整復師養成教育の到達目標と国家試験出題基準」
福岡医療専門学校　講師　塩川　光一郎
元 出題基準検討委員会　委員　細野　昇
中和医療専門学校　理事長　楠本　高紀
フリーランス　基礎医学講師　林　孝宗
公益社団法人日本柔道整復師会　会長　長尾　淳彦
連携内容：学生20名がスタッフとして参加し教員2名が座長を務めて、大会の運営に尽力した。参加学生も知的好奇心を刺激された様子で有意義な二日間であった。

研修名：第57回東海学術大会静岡大会
日時：令和6年11月24日(日)
講師、内容：会員研究発表が7題
『背負い投げ時における肘関節内側部痛に対する一考察』 纐纈和輝会員
特別講演『足関節鏡下靭帯再建術の開発の歴史と成績』講師　医療法人社団　康心会　茅ヶ崎中央病院　整形外科部長　東山礼治先生。
連携内容：教員1名が参加して、最先端の医療に関して見識を深めてきた。

研修名：日本転倒予防学会第11回学術集会
日時：令和6年11月24日(日)
講師、内容：家庭でも職場でも社会でも転ばないin SAGA
連携内容：教員1名が参加して、転倒予防に関して新たな知見を学んできた。

研修名：第33回 日本柔道整復接骨医学会 学術大会
日時：令和6年11月30日(土)～12月1日(日)
講師、内容：【メインテーマ】「柔道整復師～多様性の時代にどう生きるか」
【シンポジウムテーマ】「災害時の柔道整復師の役割」
連携内容：卒業生がシンポジウムのパネリストとして参画。また校長が参加して知見を深めてきた。

研修名：日本転倒予防学会 第12回学術集会
日時：2025年10月4日(土)～5日(日)
会場：Gメッセ群馬
内容：学術集会の概要「転倒予防の未来を描く一多職種で織りなす地域包括連携一」をメインテーマに掲げ、医療・介護の現場が連携した包括的な議論が展開
　　された。
大会長: 梅原里実氏(高崎健康福祉大学)、上内哲男氏(JCHO東京新宿メディカルセンター)
連携内容：職員の島が日本転倒予防学会第12回学術集会に参加し、多職種による転倒予防や地域包括ケアに関する最新の知見を収集するとともに、医療・介護関係者との情報交換を行った。学会で得られた知見を教育活動に反映し、地域連携を意識した柔道整復師の育成に努めた。

研修名：第58回東海学術大会愛知大会
日時：令和7年(2025年)11月22日・23日
会場：名古屋市中区役所ホール
主な内容：講演：「匠の技伝承プロジェクト」「エコーを柔整師の手に」研究発表：軟部組織損傷の力学解析など全7題
　　県民公開講座：名古屋市立大学病院整形外科医による「肩肘のスポーツ障害」の講演
　　足関節背屈角度とアキレス腱長の関係性について　～超音波観察装置を用いて～　学生　田上ゆいが発表
連携内容：東海学術大会への参加を通じて、超音波観察装置の活用や最新の研究成果について知見を深めるとともに、学生による研究発表を通じて教育・研究活動の充実を図った。また、整形外科医や柔道整復師との交流を通じて、臨床現場に即した知識・技術の向上および地域医療との連携強化に努めた。

研修名：第34回 日本柔道整復接骨医学会 学術大会
日時：2025年12月6日(土)～7日(日)
会場：東京都中野区の帝京平成大学 中野キャンパス
開催概要：全国の柔道整復師や関連する医療従事者、研究者が集まり、最新の知見や臨床研究を共有する場として開かれました。大会テーマ:「エンジョイ学会！エンジョイ柔道整復接骨医学！～オール柔道整復師の学会をめざして～」
代表・大会長: 冲永 佳史 氏(帝京大学 理事長)
連携内容：第34回日本柔道整復接骨医学会学術大会に職員の山本、松原が参加し、全国の柔道整復師や研究者との情報交換を通じて、最新の臨床知見および研究成果の共有を図った。また、学会で得られた知見を教育活動や臨床実習指導に活用し、柔道整復師に求められる実践力と学術的視点の向上に努めた。

＜セミナー＞
対象：第26回コミュニケーションセミナー
内容：「教育現場から臨床現場へ　～開業3年間の軌跡を語る～」
講師：河原龍秀先生（38期A卒）
期間：平成27年3月13日
連携内容：河原先生、野田先生のお話を拝聴して
・自分自身の向き合い方
・思いは強く持つ
・部分ではなく全体をみる
・ぶれない
・逃げない
・縁を大切に
あらためて大事だと痛感した。

対象：第27回コミュニケーションセミナー
内容：「運動療法を継続させる初診のとり方－通院する理由－」
久野信彦先生（25期A卒）
「膝関節疾患の診かた・考え方」
神鳥亮太先生（理学療法士、日体協AT）
期間：平成27年10月2日
連携内容：患者さんとの接し方、コミニュケーションの大切さを改めて勉強させていただいた内容であった。

対象：第28回コミュニケーションセミナー
内容：「手部、手指および足部、足関節の固定」
講師：齋藤哲也（12期A卒）先生
期間：平成29年3月26日
連携内容：多くのの知識、技術さらに患者さんとのコミュニケーションの取り方、助手とのチームワークの重要性も知ることができた。やはり多くの症例を経験された齋藤先生のお話は大変貴重であり、また本来あるべき柔道整復師の姿をみることができた。

対象：第29回コミュニケーションセミナー
内容：ランニング障害の予防について　−より良いランニングライフを続けるために−
講師：岡戸敦男先生（日本体育協会公認アスレティックトレーナー）
期間：平成29年6月4日
連携内容：ランニング傷害について基礎から復習でき、明日からの臨床現場に応用できる内容であった。実例も多く紹介され非常に勉強になった。

対象：第30回コミュニケーションセミナー
内容：ザ・身体所見
講師：酒田達臣先生（34期S）
期間：平成29年10月29日
連携内容：診察能力について運動器疾患以外もしっかりと診る能力、努力が必要であることを再認識できる内容であった。

対象：第31回コミュニケーションセミナー
内容：物理療法について
講師：宮崎 誠司　先生
期間：平成30年3月18日
連携内容：物理療法の基礎、神経生理学、病態分析など非常に科学的なアプローチであった。

対象：第32回コミュニケーションセミナー
内容：トラッキングシステムで投手の球質が見えてくる
講師：濱辺 満治　先生
期間：平成30年6月10日
連携内容：最新のトラッキングシステムを駆使して投球障害にｱﾌﾟﾛｰﾁする先進的な内容であり、非常に勉強になった。

研修名：第33回コミュニケーションセミナー
出席者数：5名（うち専任教員数5名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
内容：「現場での判断！　診て聴いて触って評価して記録することの重要性」
講師：宮崎誠司先生
期間：平成30年8月19日
連携内容：総合的な判断から構造の変化の確定、治療方針の決定をしていく。過去の体験にとらわれず、その経験から総論的なことを考えて、思い込むことなく、基本的診察手順を繰り返して判断していく。基本の大切さを再度認識。

研修名：第34回コミュニケーションセミナー
出席者数：5名（うち専任教員数5名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
内容：「介護施設における柔道整復師の役割」
講師：川村展弘先生(55S卒)
期間：平成30年10月28日
連携内容：介護をキーワードに高齢化社会に果たす柔道整復師の役割を再確認する。

研修名：第35回コミュニケーションセミナー
出席者数：8名（うち専任教員数8名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
内容：スポーツ現場を支える、トレーナー活動の実践
講師：馬越信行先生（接骨院千寿堂　院長）
連携内容：トレーナーをキーワードに柔道整復師とトレーナーの関係を再確認。またパネルディスカッションとして卒業生によるトレーナー討議が行われた。

研修名：第36回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和1 年9月8日 午前10時～13時
出席者数：4名（うち専任教員数4名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数61名）
講師：宮崎誠司先生
研修概要：東海大学の教授を務める宮崎先生と連携し、非特異的腰痛について医師の目線から様々な情報が得られた。運動療法が重要であることが再確認され、柔道整復師の教育にも積極的に取り入れるべきだと認識した。

研修名：第6回柔道医科学研究会・柔道救護担当者講習会
日時：平成30年7月28日～29日
出席者数：2名（うち専任教員数2名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
研修概要（連携先企業等、期間等）：全日本柔道連盟の主催する医科学研究会と救護担当者講習会に参加し、医学的知識の向上と最新の救護対応を学んだ。

研修名：SPSS講習会
日時：平成30年8月20日、10月18日、11月22日、平成31年3月6日、3月12日
出席者数：1名（うち専任教員数1名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数45名）
研修概要（連携先企業等、期間等）：医療統計の講習を受け、研究発表における統計の手法を学ぶ

研修名：第1回スキルアップセミナー
日時：2019年1月20日（日） 10:00～12:00
演題：次世代ファシア（筋膜）リリース 「COMPRE Floss ワークショップ」
講師：秋田 豊　サッカー元日本代表、株式会社サンクト・ジャパン代表取締役
　　：大野有三　Easy Flossingアカデミー マスタートレーナー、理学療法士
連携内容：筋膜リリースについて実技を交えてご教授いただいた。

研修名：第37回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和1 年3月17日 午前10時～
講師・内容：発表者の都合により中止

研修名：第2回スキルアップセミナー
日時：2019年6月22（土）　17:00～19:00
内容：現場で行うATF損傷を想定したキャストライト固定
講師：加納功詞先生　21B
連携内容：キャスト加工時のちょっとしたコツ、固定期間内管理時のポイント等をご教授いただいた。

研修名：第3回スキルアップセミナー
日時：2019年8月24日（土）
内容：さらし固定
講師：　永田昭彦（ながた　あきひこ）先生
連携内容：急性腰痛に対するさらし固定のポイント等をご教授いただいた。

研修名：第4回スキルアップセミナー
日時：2019年09月28日（土）　17:00～19:00
内容：オルフィット固定
講師：　冨田重光先生　36A
連携内容：掌側版、TFCC損傷などに対するオルフィット固定のポイント等をご教授いただいた。

研修名：第5回スキルアップセミナー
日時：2019年10月26日（土）　17:00～19:00
講師：山北陽一先生（42S卒）
内容：下肢キャスト固定法
連携内容：作成、管理方法、巻き方（腰部、胸部）の基本から応用までレクチャーいただいた。

研修名：第6回スキルアップセミナー
日時：2019年11月30日（土）　17時～19時
講師：冨田重光先生　36A
内容：1.TFCC損傷の急性期を過ぎた症例への固定　－オルフィットを使用して－
　　2.接骨院におけるコーレス骨折の整復と固定まで　－アルフェンスを使用して－
連携内容：接骨院における固定について実技を交えてご教授いただいた。

研修名：第1回　トレーナー研究会
日時：令和2年1月26日（日）10時～13時30分
場　　所：米田柔整専門学校3F講堂
出席者数：4名（うち専任教員数4名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数66名）
内　　容：体表解剖とエコー（ハムストリングスの肉離れを主なテーマにして行う予定）
時　　間：座学と実技を含めて3時間程度を予定
講　　師：堀智秋先生（34期A卒、「骨格筋の形と触察法」の編集に携わられています）
　　伊賀リハビリライフサポート代表
　　一般社団法人　体表解剖学研究会　理事
　　一般社団法人　ロコモペイングループ　共同代表
連携内容：卒業生が講師を務めて、卒業生向けにセミナーを実施した。

研修名：第7回スキルアップセミナー
日時：2020年2月22日（土）　17:00～19:00
講師：佐藤貴正先生（45期S卒　株式会社昭真会　まはろ接骨院　代表取締役）
内容：スクワット、ランジを用いた身体評価
連携内容：動作評価について実技を交えてご教授いただいた。

研修名：第38回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和2 年9月13日 午前10時～12時
講師：藤田英二先生（鹿屋体育大学スポーツ生命科学系准教授 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）
内容：「転倒・骨折を防ぐには？」
出席者数：6名（うち専任教員数4名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数66名）
連携内容：卒業生が講師を務めて、卒業生向けにセミナーを実施した。

研修名：第39回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和2 年3月28日 午前10時～12時
講師：西尾有司先生（弁護士法人心）
内容：「「知らなきゃ損する！交通事故 Q＆A」
出席者数：3名（うち専任教員数4名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数66名）
交通事故に対する施術に対して弁護士として多数かかわった経験をもとにお話をいただいた。被害者の方が泣き寝入りしないように時には弁護士に相談することも検討する価値はあるとのことであった。患者さんの利益になることを一番に考え、利害関係が一致すれば相談することも視野に入れるべきであるか。

研修名：第2回　トレーナー研究会
日時：令和2年11月7日（土）17時～18時30分
内　　容：解剖学と体表解剖学に基づいた靭帯損傷の病態評価と治療法について
（1月のセミナーで行ったハムストリングスの筋損傷の続きで、膝部内側面で損傷を起こし
やすいと考えられる、内側側副靱帯や半膜様筋停止腱付着部を中心に構造と触察について
出席者数：4名（うち専任教員数4名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数66名）
講　　師：堀智秋先生（34期A卒、「骨格筋の形と触察法」の編集に携わられています）
　　伊賀リハビリライフサポート代表
　　一般社団法人　体表解剖学研究会　理事
　　一般社団法人　ロコモペイン・グループ　共同代表
研修名：第40回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和3 年6月13日 午前10時～12時
講師：伊藤雅流先生（瑞穂いとう接骨院院長　53期S卒）、山田隼也先生（米田病院　56期A卒）
内容：「柔道整復師が知っておきたい成長期腰椎分離症」
前半は山田先生から腰椎分離症についての基礎知識をお話しいただき、後半は伊藤先生から実際に接骨院でどのように分離症患者さんをみていいくかをレクチャーいただいた。オンライン施術なども行っており、非常に興味深い内容であった。

研修名：第41回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和3 年10月3日 午前10時～12時
講師：福山陽子先生（米田病院 医師）、神鳥亮太先生（島根スサノオマジック ハイパフォーマンスディレクター）
内容：「膝前十字靭帯断裂について」
前半は福山先生から前十字靭帯断裂の手術療法についての基礎知識をお話しいただき、後半は神鳥先生からリハビリテーションをどのようにみていいくかをレクチャーいただいた。

研修名：第42回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和4 年3月12日 午前10時～12時
講師：紙谷武先生（東海学園大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 教授、米田病院非常勤医師）、学生発表
内容：「柔道整復師が知っておきたい柔道外傷・障害について」
連携内容：前半は学生からエコーと触察をテーマに発表、後半は紙谷先生から柔道外傷についてレクチャーいただいた。外傷の知識だけではなくカノウイズムなど柔道の教えの奥深さを学べる内容であった。

研修名：第9回　柔道医科学研究会
日時：令和4年年7月30日（土）13:00-17:00
　　7月31日（日）9:00-11:30
講師：会長：米田　實（米田柔整専門学校　学長）
シンポジウムⅠ　－柔道医科学の挑戦－
東海大学八王子病院心臓血管外科　金淵一雄
医療法人社団松本会　松本病院　田邊　誠
女性アスリートの健康管理～スピードスケート選手における支援～　拓殖大学際学部　鈴木なつ未
柔道の価値を子どもたちへ　米田病院リハビリテーション科　國本丙基　等
学長が研究会の会長を勉め、非常勤講師の國本がシンポジストとして発表。翌日には井上康生先生をお招きして米田道場にて転倒予防教室も開催された。

研修名：第43回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和4 年10月1日 午後3時～5時
講師：伊藤超短波株式会社
内容：「知っておきたい物理療法（ハイボルテージ）」
連携内容：講師より物理療法の詳細な説明があり、その後物理療法の臨床への応用方法を教授いただき、参加者自身がその効果を実感する体験型のセミナーであった。

研修名：第8・9・10回スキルアップセミナー
日時：令和4年9月10日（土）、10月15日（土）、11月26日（土）
講師・内容：柔道整復師が知っておくべき交通事故対応の基礎知識　弁護士法人 心 交通事故チーム
連携内容：弁護士による交通事故の専門的知識を卒業生に向けてレクチャーしていただいた。

研修名：第44回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和 5年3月18日 午後3時～5時15分
講師：卒業生（5名）及び学生（3名）
連携内容：「症例報告」
在校生（3年生）
1.頚部筋;背部筋;腰部筋の触察とエコー観察
～触察意欲を駆り立てる筋肉たち～　鈴木真仁、松村怜南
2.MCLの触察とエコー
～POLとMPFLにも着目して～ 牧野力丸
卒業生
3.変形性膝関節症と膝骨壊死
～治療中のpitfallと免荷治療について～　嶋谷尚記　（57A　服部整形外科）
4.クライミング特有の怪我について　竹内勇志郎（57A　みたに整形外科）
5.どうする？リウマチ！
～エコーでの判断のコツ～　胡桃沢翔太（50A　かとう整形外科）
6.判断力に欠け見逃してしまった骨折2症例　竹枝茂樹　（58A　青山外科）
7.小児鎖骨骨折
～反省した症例の報告～　山本達也（48S　やまもと接骨院）
講師から発表があった後、質疑応答が行われ、活発な議論が繰り広げられた。

研修名：第45回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和5年6月17日 午後3時～5時
講師：深谷 謙太先生（46A卒　ごりら接骨院）
連携内容：「アスリートから「柔道整復師」として信頼され活躍するためのポイントと実際のトレーニング」
前半は講師より経験談をもとにしたエピソードが展開され、後半は実技を実施し、体幹トレーニングの重要性を再認識することができた。

研修名：第3回トレーナー研究会
日時：令和5年9月2日、9日、30日、10月14日、28日
講師：ベストコンディション代表　山本充伺先生
連携内容：「トレーニングについて」様々なトレーニングについて理論と実践を交えて、実技中心にセミナーを実施した。

研修名：第46回　卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和5年3月16日 午後3時～5時
講師：在校生（3年生）Osgood-Schlatter病の最近の知見について　中川真有里
オーバーハンド動作時における肘関節内側側副靱帯へのエコー観察　田畑匠平
内側縦アーチの低下に伴う外脛骨評価～母趾MTP関節伸展可動域との関係～
卒業生　若年性膝痛と扁平足 縄田竣也（62A 服部整形外科）
腰椎症　～思い込み治療ダメ絶対～　服部大翼（62A ころも接骨院）
予防医学とアニマルフロー　竹内勇志郎（57A　みたに整形外科）
メディカルチェックから学ぶJones骨折　石川　蓮　（56A　石川接骨院）
連携内容：「症例報告」発表の後、質疑応答がされ、活発な議論が交わされた。

研修名：第11回スキルアップセミナー
日時：2024年4月27日（土）15:00～17:00
場所：米田柔整専門学校　講師：東谷篤憲先生（49A卒）
演題：接骨院（柔道整復師）とデイサービスの親和性について
内容：①デイサービスとはどんなところ？
②接骨院とデイサービスに来院、来所される方の共通点と相違点について
③機能訓練指導員として従事するためのポイント
④介護経営について
連携内容：柔整と介護の実情について具体的な事例を含めてご教授いただいた。

研修名：第47回卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和6年6月15日(土) 15：00～17：00
講師：「身体機能から考える水泳肩」坂口健史先生　名古屋大学大学院医学系研究科　整形外科　膝肩スポーツ班
座長：紙谷武先生
連携内容：水泳選手のコンディショニングについて教授いただいた。メディカルチェックのサポートそして学生が数名参加させていただくこととなった。

研修名：第12回スキルアップセミナー
日時：2024年8月17日（土）15:00～17:00
場所：米田柔整専門学校　講師：東谷篤憲先生（49A卒）
演題：私が介護経営で実践してきたこと
～業務の効率化、職場定着採用戦略を中心に～
内容：①業務効率のポイント
②採用戦略について
③コミュニケーション向上のヒント
連携内容：介護施設の経営について具体的な事例を含めてご教授いただいた。

研修名：第13回米田柔整専門学校スキルアップセミナー
日時：2024年2月22日（土）15:00～17:00
場所：米田柔整専門学校
講師：竹内勇志郎先生（57A卒）
演題：「若手セラピスト必見！苦手意識を克服し、次のステップへ！」
連携内容：

研修名：第48回卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和7年3月15日(土) 15：00～18：00
講師：在校生（3年生）
1.慢性足関節不安定症について 上原 裕
2.バレーボールのブロック動作で受傷した小指PIP関節開放性脱臼の術後の治癒経過 松田香菜子
3. 自在曲線定規を用いた腰椎伸展角度の評価 奥村百花
卒業生
4.胸郭から考える体幹トレーニング 山本光介 (58A 服部整形外科皮膚科）
5.新鮮脊椎圧迫骨折の早期診断のための要点とピットホール
松場 惇 (63A 服部整形外科）
特別講演
介護保険利用者に対するエクササイズ介入の効果
藤田英二（33S）柔道整復師
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
鹿屋体育大学スポーツ生命科学系教授
連携内容：在校生と卒業生が交流を図り有意義な時間となった。藤田先生からは最先端の学術研究を教授いただき、大変勉強になった。

研修名：第13回米田柔整専門学校スキルアップセミナー
日時：2025年2月22日（土）15:00～17:00
場所：米田柔整専門学校
講師：竹内勇志郎先生（57A卒）
演題：「若手セラピスト必見！苦手意識を克服し、次のステップへ！」
連携内容：運動療法では患者さん一人ひとりに合った「良い動作」を提供することが重要であり、そのために観察力や仮説力が必要だと学んだ。
また、運動療法に絶対的な正解はなく、創意工夫を重ねながら取り組むことの大切さを感じた。

研修名；第49回卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和7年10月5日(日) 9：00～11：00
内容：「最期は家で穏やかに… ～終末期医療における医接連携と柔道整復師の役割～」
講師：森川 由基
愛知県柔道整復師会 森川接骨院 顧問医師
もりかわ在宅ケアクリニック楠 院長
帝京平成大学 大学院健康科学研究科，健康医療スポーツ学部柔道整復学科 講師
秋田大学 大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座 非常勤講師
植草学園大学保健医療学部リハビリテーション学科 客員教授
連携内容：終末期医療においては「治す医療」だけでなく「支える医療」が重要であり、在宅医療の中で柔道整復師が運動機能の維持やQOL向上に貢献できる
ことを学んだ。医師と柔道整復師の連携による在宅医療の可能性や、地域包括ケアにおける柔道整復師の役割の重要性について理解を深めること
ができた。

研修名：第50回卒業生コミュニケーションセミナー
日時：令和8年3月15日(日) 10：00～12：15
プログラム：
在校生（3年生）
1.前十字靱帯断裂に伴う周囲軟組織の観察　岡本恵汰
2.高校女子バスケットボール部における股関節前捻角の測定と現場活用　御宿世理香
3.肘関節の外側不安定性を呈する一症例　小山空楽
卒業生
4.パーソナルトレーニングと予防医療の架け橋　青山由裕（46S　青山接骨院）口
5.サボってる筋肉を呼び起こせ！～動作を見てピンポイント施術による症状改善～　中野真聖（61A　小林整骨院）
6.保存治療では改善できず非観血的授動術に至った肩関節拘縮症例のリハビリテーションの経過について　篠原由一（62A 服部整形外科）
7.足関節捻挫症例に対する当院の取り組み　～再発予防・パフォーマンスupに向けて～　春日部知大（59E　森ファミリー接骨院）
連携内容：在校生の研究発表から超音波観察やスポーツ障害評価に関する理解を深めるとともに、卒業生による臨床実践の報告から現場で求められる

②指導力の修得・向上のための研修等

対象：第56回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復教育の現在と未来」
講演1　学習成果基盤型カリキュラムの考え方と学校教育の質保証
講師：公益社団法人柔道整復師試験財団　代表理事　福島統
講演2　低学力者支援の取り組みについて
講師：慈慶学園グループ講師　藤雅茂
講演3　ウィンタースポーツにおける外傷・障害と対策について
講師：札幌医科大学保健医療学部　理学療法学第2講座　整形外科教授　渡邉耕太　その他、分科会等
期間：平成26年08月02日～03日
連携内容：公益社団法人　全国柔道整復学校協会が主催して、教員研修等委員会の委員として本校教務主査（島大輔）が参画している。
関係性：研修会が学校協会主催の教員研修会であり、柔道整復科の教育内容を中心に低学力者支援などにも焦点をあて開催している。

対象：第57回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復教育の現在と未来」
講演1　専門学校における初年次教育
講師：佛教大学大学院　教育学研究科　教育学部長　教授　原　清治
講演2　過去の柔整教育から学ぶ現在の柔整教育の在り方
演者：米田柔整専門学校　副校長　船戸　嘉忠　先生
講演3『鼠径部痛症候群の診断と治療、予防』
演者：JIN整形外科スポーツクリニック　仁賀　定雄　先生
講演4『Groin pain syndromeの改善トレーニング』
演者：じんどう整骨院アスリート　畑中仁堂先生
期間：平成27年08月22日～23日
連携内容：公益社団法人　全国柔道整復学校協会が主催して、教員研修等委員会の委員として本校教務主査（島大輔）が参画している。
関係性：研修会が学校協会主催の教員研修会であり、柔道整復科の教育内容を中心に低学力者支援などにも焦点をあて開催している。

対象：第58回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復教育の現在と未来」
講演1「柔道整復師と整形外科医療スタッフとの共同体制について：アスリートの体調管理に対するチーム医療と整形外科医の展望」
演者：Dr.Hal Townsend(Southern Oregon University,Team Phycian)
講演2　学生のやる気を引き出す行動心理学
演者：武庫川女子大学　文学部教育学科　教授　北口　勝也
講演3 「柔道整復ブレインの生い立ちとプロフェッショナル」
大阪行岡医療専門学校　学校長　大井 静雄
期間：平成28年08月23日～24日
連携内容：公益社団法人　全国柔道整復学校協会が主催して、教員研修等委員会の委員として本校教務主査（島大輔）が参画している。
関係性：研修会が学校協会主催の教員研修会であり、柔道整復科の教育内容を中心に低学力者支援などにも焦点をあて開催している。

対象：第59回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復が社会に果たす役割」
講演1 「発達障害のある学生への指導　－応用行動分析の視点から－」
講師：武庫川女子大学　文学部　教育学科　北口勝也先生
講演2：『高齢化社会における脳神経外科医と柔道整復師の役割』
講師：牧田総合病院　背椎背髄センター部長　朝本　俊司　先生
講師；岡山済生会総合病院　脳神経外科　主任医長　中島　正明　先生
期間：平成29年08月19日～20日
連携内容：公益社団法人　全国柔道整復学校協会が主催して、教員研修等委員会の委員として本校教務主査（島大輔）が参画している。
関係性：研修会が学校協会主催の教員研修会であり、柔道整復科の教育内容を中心に低学力者支援などにも焦点をあて開催している。

対象：第60回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復が社会に果たす役割」
講演1 『アクティブ・ラーニングの実践について～明日から実践できるAL～』
株式会社学び　代表取締役社長
一般社団法人アクティブ・ラーニング協会　理事
アクティブ・ラーニング認定ファシリテーター
一般社団法人　大学支援機構　理事
リクルート進学総研　客員研究員　寺裏　誠司
講演2 『知っておいてほしい アンチ・ドーピングの知識～最近の違反事例を踏まえて』
医療法人 社団SKAY　しみず整形外科リハビリクリニック　清水　顕
講演3　スポーツ選手とスポーツトレーナーとしての柔道整復師の関わりについて
株式会社RT-japan社長　立石　諒
総合警備保障株式会社　レスリング部　高谷　惣亮
日本医学柔整鍼灸専門学校　特任講師　メディカルトレーナー育成部長　黄海　匡士
期間：平成30年08月18日～19日
連携内容：公益社団法人　全国柔道整復学校協会が主催して、教員研修等委員会の委員として本校教務主査（島大輔）が参画している。
関係性：研修会が学校協会主催の教員研修会であり、柔道整復科の教育内容を中心に低学力者支援などにも焦点をあて開催している。

研修名：第61回教員研修会
出席者数：3名（うち専任教員数3名、兼任教員数0名）（全専任教員数12名、全兼任教員数61名）
研修概要（連携先企業等、期間等）：テーマ「柔道整復が社会に果たす役割」
日時：令和1 年 8月24日（土）～25日（日）
場所：ホテルメトロポリタン仙台
連携内容：学校協会主催の教員研修会に参加して、教育の質向上とともに業界の動向など情報交換を全国の教員と行っている。
関係性：本校教員島は教員研修等委員会の委員としても参画している。

新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度の教員研修会は中止となった。

対象：第63回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：『柔道整復が社会に果たす役割
場所：スターゲイトホテル関西エアポート
期間：令和3年11月27日～28日
研修概要：講演1　遊びと研究 －後悔しない人生バランスー』
大阪大学大学院 医学系研究科 病理学 幹細胞病理学　教授 仲野　徹
講演2　ノーベル賞がもたらす日本の医療の発展
国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学　バイオサイエンス研究科　機能ゲノム医学研究室　准教授　石田　靖雅
講演3　法医学へのいざない　大阪大学大学院　医学系研究科　社会医学講座　法医学　教授　松本　博志
連携内容：本校教員2名が参加して、報告書を作成し、内容を職員で共有した。
関係性：学校協会に所属し、研修等において連携を図っている。

対象：第64回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復が社会に果たす役割」
講演1 『柔道整復師が知っておきたい柔道の外傷』
東海大学スポーツ健康学部教授 紙谷武先生
講演2 『専門学校に求められるコンピテンシーとは』
医療法人社団慶生会滋慶トータルサポートセンター センター長 鈴森 剛志
講演3 『骨折に対するX線画像と超音波画像の関係』
横浜市立大学 医学部 神経解剖学教室(非常勤講師) 森倫範
期間：令和4年09月18日～19日
連携内容：公益社団法人　全国柔道整復学校協会が主催して、本校教員が座長などで参加している。
関係性：講演1の紙谷先生は本校の非常勤講師も勤めており、講演3の森先生は本校の卒業生である。

対象：第65回全国柔道整復学校協会教員研修会
内容：「柔道整復の新時代へ」
講演1 『人体のカタチを味わう喜び～VR/AR技術を活用した教育実践～』
国立看護大学校　生命科学 教授　本間典子
講演2 『Z世代の学生を国家試験合格に導く目標達成の技術』
アチーブメント株式会社　代表取締役会長兼社長　青木仁志
講演3『学生の心をつかむ話し方～PREPAを用いたコミュニケーション力向上で退学率減少を目指す～』
株式会社スピーチジャパン　代表取締役　三橋泰介
期間：令和5年09月23日～24日
連携内容：学校からは理事長含めて4名参加し、報告書を作成し、職員で共有した。
関係性：懇親会の中締めを本校の理事長が行うなど、学校協会と連携した活動を実施している。

対象:第66回　全国柔道整復学校協会教員研修会
期間:令和6年09月21日～22日
メインテーマ:『 柔道整復の新時代へ 』
内容:『「読む」とはどういうことか？』 スタディサプリ　講師　柳生　好之
座長:学校法人小倉学園　新宿医療専門学校　永野　修
『効果的な初年次教育について』 昭和大学歯学部歯学教育学講座、歯科理工学講座　講師　片岡　有
座長:学校法人小倉学園　新宿医療専門学校　学科長　関口　将一
『教育に生かすコミュニケーション技術』 東京工芸大学　芸術学部長・教授　大島　武
座長:学校法人森ノ宮医療学園　森ノ宮医療学園専門学校　理事長　清水　尚道
①『信頼される柔道整復師養成施設とは』
～柔道整復の未来を拓く「第三者評価」～　柔道整復教育評価機構　理事長　関口　正雄
②『信頼される柔道整復師の養成』 ～柔道整復師養成施設カリキュラムのスクラップ＆ビルド～　全国柔道整復学校協会　理事　斎藤　秀樹
③『多職種連携を見据えた　柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラムの必要性
連携内容:学校からは理事長含めて4名参加し、報告書を作成し、職員で共有した。

対象:第67回 全国柔道整復学校協会 教員研修会
期間:2025年9月27日(土)～28日(日)
会場:福岡国際会議場
開催概要:全国の柔道整復師養成校(専門学校・大学)の教職員が一堂に会し、教育の質の向上や指導体制の強化について議論・研鑽を行う目的で開かれた。
メインテーマ:「柔道整復の新時代へ」主催: 公益社団法人 全国柔道整復学校協会
●講演1 「学科長のマネジメント”学校の運命は学科長が握っている”」 講師: (公社)全国柔道整復学校協会副会長　関口正雄先生
●公演2 『柔整ブランディング:パネルディスカッション』 講師:学校法人滋慶学園　福岡医健・スポーツ専門学校　副校長・学科長　湊谷知幹
学校法人松正学園　専門学校沖縄統合医療学院　学科長　川満　亘
学校法人国際志学園　九州医療スポーツ専門学校　学科長　社　由洋
●講演3 『魅力の伝承 ～柔道整復師～』 講師:九州医療スポーツ専門学校　教務部長　水嶋　章陽　先生
●講演4 『教育機関と臨床現場の融合を目指して』　講師 : 橋口　浩治 先生(環太平洋大学 特任講師)
●教育講演 「高齢者に対するエクササイズ介入の効果」 講師:藤田　英二 (鹿屋体育大学スポーツ生命科学系 教授)
連携内容:他養成校教員や業界関係者との情報交換を通じて、教育手法やカリキュラム改善に関する最新の知見を共有した。
また、臨床現場と教育現場の連携事例や研究成果を学び、本校の教育内容の充実および柔道整復師養成の質向上に活用した。
学校からは理事長含めて7名参加し、報告書を作成し、職員で共有した。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：第51回卒業生コミュニケーションセミナー
日時：2026年10月25日（日）10:00～12:00
講師：森公一医師（米田病院　院長）

②指導力の修得・向上のための研修等

令和8年度は学校協会 教員研修部会が中心となり教員研修会を開催予定。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

・実践的な職業教育機関としての専修学校が、社会全体の信頼を得ていく上では、関係業界等からのニーズを踏まえた教育活動等の評価や情報公開が、組織を改善するためのPDCAサイクルの中に位置づけられ、①教育の質の改善、②社会に対する説明責任、③学校評価を通じたガバナンス改善に向けた自主的な取組を促進していくことが重要となる。米田柔整専門学校の業務改善部の一角として学校関係者評価は重要な役割を担うため、多角的な視点から評価を行っていくこととする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編制・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編制されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務 ・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われて いるか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか

（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の 改善に活用されているか
（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の　取組が行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	
※（10）及び（11）については任意記載。	

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において、教育理念の浸透、学生募集、退学防止、教育内容の充実、業界動向への対応などについて多くの意見をいただいた。これらの意見を学校運営の改善に活用している。

具体的には、教育理念については、「佛心仏心」の表現が学生に十分浸透していないとの指摘を受け、第三者評価も見据えながら、建学の精神や教育理念を分かりやすく整理し、学内外への発信方法を見直している。

学生募集については、本校の強みである外傷対応能力や医療機関との連携教育を積極的に広報し、「ほねつぎの専門学校」としての特色を明確化して募集活動を行っている。

学生支援については、退学率低減に向けて、学生カンファレンスによる情報共有、個別面談、補習指導、長期休暇中のフォローを継続するとともに、委員から提案のあった早期キャリア教育や卒業生との交流機会の拡充について検討を進めている。

学習支援については、基礎学力不足への対応として入学前教育を実施するとともに、リメディアル教育や学習習慣形成に関する支援体制の充実を図っている。

教育内容については、画像読影能力の向上や医接連携教育の充実、柔道整復師の専門性である外傷教育の強化について、今後のカリキュラム改善の参考としている。

業界の現状や将来像を学生へ伝える機会を増やし、柔道整復師としての職業観や目的意識の醸成につなげる取り組みを進めている。

今後も学校関係者評価委員会からの意見を学校運営計画に反映させ、教育の質保証と継続的改善に努めていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
森川　伸治	公益社団法人　愛知県柔道整復師会	2023/8/1～2025/7/31	業界団体役員
加納　功詞	加納接骨院	2023/8/1～2025/7/31	卒業生
森　虹輝	森ファミリー接骨院	2023/8/1～2025/7/31	企業委員
太田　佳孝	医療法人恭純会　服部整形外科	2025/5/1～2027/7/31	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法：　ホームページ

公表時期：令和8年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

職業に必要な実践的かつ専門的な能力が習得できる業界及び学生の就職先として関連深い企業の関係者の皆様に本校を理解していただき、さらに連携・協力の推進に資する為に、本校の教育活動・学校運営の状況・情報を提供し、情報の透明化を図っていく。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	＜学校理念＞ 学校の理念は創設以来「佛手仏心」を掲げている。これは外科医の「鬼手仏心」をなぞらえ、仏のような手と仏のような心で患者に接する倫理感を説いている。 ＜経営理念＞ 伝統に根ざした革新的な、かつ心技体のバランスの取れた柔道整復のプロフェッショナル育成を目指し、本校卒業の柔道整復師が生涯にわたってしっかり地域での信頼を得て包括基盤を確立し、社会貢献出来るような基盤を築く。 校長名：山本啓司 所在地 ：〒451-0053　名古屋市西区枇杷島二丁目3番13号 連絡先 ：TEL:052-562-1210　FAX:052-563-6495 ＜学校の沿革＞ 昭和35年　中部柔整専門学校開校 昭和53年　校名を中部柔整専門学院に変更 昭和55年　卒業生1,000名に達する 平成元年　卒業生2,000名に達する 医療法人米田病院立に設置者変更 平成02年　専修学校設置認可 校名を米田柔整専門学校に改称 平成09年　学校法人米田学園設立認可 設置者を学校法人米田学園に変更 卒業生3,000名に達する 平成18年　卒業生4,000名に達する 平成28年　卒業生5,000名に達する 新校舎完成 米田接骨院を新校舎1階に移転 米田道場改修 令和4年　校長に山本啓司が就任 令和5年　副校長に片桐幸秀が就任 令和6年　第1部午前クラス30名、第1部全日クラス50名（2ｸﾗｽ）に変更
（2）各学科等の教育	＜受け入れ方針＞ 学校教育法により大学に入学できる者 入学者数：柔道整復科第1部：80名 収容定員 ：柔道整復科第1部：240名 在学学生 ：柔道整復科第1部：205名 時間割【別紙資料－1】 授業内容【別紙様式4（3）参照】 ＜成績評価基準＞ 成績の評価 授業の年間定期考査総合平均点が100点満点換算で、60点以上を合格とする。 臨床実習の成績については、前項の規定にかかわらず、学年末において合格・不合格の評語をもって評価する。合格・不合格の判定は、教務会で行うものとする。 1）進級認定 教務会の議を経て校長が認可 する 。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。 （1）1年間で出席しなければならない日数の 3 分の 2 以上を出席していない者 （2））学則に掲げる各授業科目の出席時間数が授業時間数の3分の2に満たない者 （3）当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者 （4） 期日までに所定の学費を納入しない者 （5 ）その他校長が裁定した者

	2)卒業認定 教務会の議を経て校長が認可 する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。 (1)1年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者 (2)各授業の年間延欠課日数が全 授業 日数の30%を超えた者 (3)卒業までにすべての単位を修得していない者 (4)公益財団法人 柔道整復研修試験財団 が実施している認定実技審査に合格していない者 (5)期日までに所定の学費を納入しない者)期日までに所定の学費を納入しない者 (6)その他校長が裁定した者)その他校長が裁定した者 資格: 柔道整復師国家試験受験資格 ＜資格取得実績＞ 令和7年度　柔道整復科 第1部56名 卒業生 令和7年度　柔道整復科 第1部61名 卒業後の進路 接骨院、病医院、介護福祉施設等
(3)教職員	＜教職員組織＞ 専任教員10名、事務職員7名 ＜教員の専門＞ 山本　啓司(校長):基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 島　　大輔(校長補佐):基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 生駒　慎二(教務主査):基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 吉田　剛章:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 吉川 かなえ:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 石田　桃子:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 堀田　　篤:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 飯田　直久:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 松原　太朗:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 奥村　裕明:基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技
(4)キャリア教育・実践的職業教育	＜実習の取組み＞ 1学年　米田接骨院実習 2学年　よねだ整形リハビリクリニック実習 学外接骨院での実習 介護施設での実習 3学年　医療機関で実習 ＜就職支援＞ 各企業を招待し、合同就職説明会を開催。 就職担当者と学年担任を中心に随時相談しながら就職までを支援している。 求人情報はファイルに整理し9時～17時00分まで随時閲覧が可能。

（5）様々な教育活動・教育環境	＜主な学校行事＞ 04月　入学式 06月　就職説明会 08月　夏季休業 07月　前期定期考査 09月　校内柔道大会 10月　運動会 　　就職説明会 　　コミュニケーションセミナー 11月　認定実技（3年生） 12月　日本柔道整復接骨医学会 　　後期定期考査（3年生のみ） 　　冬季休業 01月　後期定期考査（1,2年生のみ） 02月　スキルアップセミナー 03月　国家試験（3年生） 　　卒業式・修了式 　　コミュニケーションセミナー 課外活動 クラブ活動：柔道部、学生トレーナーサークル 　　少年柔道教室 スポーツトレーナー育成プログラム 特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者資格（JATI-ATI）養成校の認定を得て、希望する学生には、在学中に本資格の取得を可能とした。また、一般社団法人日本スポーツ医学検定機構の行う医学検定のパートナー校になり、学生が同検定の1 級を目指す環境を整備している。

（6）学生の生活支援	欠席過多、成績不良者に対する支援：長期欠席者等に関しては、電話や文書により連絡をとり早い段階で面談を行い、本人の希望に沿うように努力する。保護者との連絡も密に取ることで学校、学生、家庭の3方のコミュニケーションを重要視している。 心のケア：学校外の専門家を窓口として、学生の心のケアを目的とした相談窓口を開設し、対応している。
（7）学生納付金・修学支援	＜学生納付金の取り扱い＞ 入学金300,000円 授業料880,000円 実習費240,000円 施設費200,000円 その他、教材費として60,000円、外部実習費として60,000円を徴収する。 入学金は入学時のみ徴収する 授業料・実習費・施設費は前期・後期の2期に分け徴収 納期：入学金　合格通知到着後約１週間以内 １年次前期納入日：03月末日 ２年次以降前期納入日：04月初旬 後期納入日：09月末日 ＜経済的支援措置の内容＞ ・特待性精度 成績特待生（受験生）：一般入学試験（入試第2回）の合格者より成績優秀者10名以内に対して成績特待生として初年度の前期授業料のうち200,000円免除。 成績特待生（在校生）：年間成績優秀者3名以内に対して成績特待生として次年度の後期授業料のうち最高200,000円免除。 ・支援制度 社会人支援：既卒者には初年度の前期授業料のうち120,000円を免除。 引越し支援：新卒者の方で入学後に保護者と別住所に住む際に初年度の後期授業料のうち120,000円を免除。 ひとり親家庭支援：新卒者でひとり親家庭の方は初年度の後期授業料の内、120,000円を免除。 扶養者支援：入学の前年に配偶者控除もしくは扶養控除を受けられた方は初年度の授業料の内120,000円を免除。 柔道支援：柔道経験者で適用になれば新卒者には初年度の前期授業料のうち240,000円を、既卒者には、初年度の後期授業料のうち240,000円を免除。 各制度は併願可能。ただし、併用の場合は上限を各期360,000円とする。 ・高等教育の修学支援制度 ・奨学金を仲介 日本学生支援機構 日本政策金融公庫[国の教育ローン]
（8）学校の財務	【別紙資料－2】
（9）学校評価	自己評価 【別紙資料－3】 学校関係者評価 【別紙資料－4】
（10）国際連携の状況	
（11）その他	
※（10）及び（11）については任意記載。	
（3）情報提供方法 ホームページにて公開	

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復科）令和5年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英　　語	英語は言語であり、道具として使わなければならない。最先端の国際的研究発表・論文などは英語が主流である。世界共通語である医学英語を基礎から学習し、使えるようにしたい。	1前	30	2	○			○			○	
○			社 会 学	現代日本が抱える諸問題を家族・ジェンダー・貧困といった視点から考えて行きたい。	1前	30	2	○			○			○	
○			体　　育	1.体力の定義2.コンディショニング論3.トレーニング論4.運動療法論5.筋力6.持久力7.巧緻性・敏捷性・協調性8.アライメント9.柔軟性とストレッチング10.神経筋機能とＰＮＦ	3前	30	2	△		○	○			○	
○			心 理 学	心理学の基礎を学び対人援助職としての自己理解・他者離解を深める。	1通	30	2	○			○			○	
○			栄 養 学	幅広い疾患に対する治療効果を上げる為に柔道整復師として健康や疾患について理解しておく必要がある。	1後	30	2	○			○			○	
○			生 物 学	1.序論2.細胞と組織3.体液4.循環器系･呼吸器系･消化器系	1通	60	4	○			○			○	
○			解 剖 学	1.人体解剖学概説2.運動系3.脈管系4.内臓系5.内分泌系6.神経系7.感覚器8.体表解剖	123通	180	12	○			○		○	○	
○			生 理 学	1.生理学の基礎2.血液3.循環4.呼吸5.消化と吸収6.栄養と代謝7.体温とその調節8.尿の生成と排泄9.内分泌系の機能10.生殖11.骨12.体液13.神経の基本的機能14.神経系の機能15.筋肉の機能16.感覚	123通	180	12	○			○			○	
○			運 動 学	1.運動学の目的2.運動の表し方3.身体運動と力学4.運動器の構造と機能5.神経の構造と機能6.運動感覚7.反射と随意運動8.四肢と体幹の運動9.姿勢10.歩行11.運動発達12.運動学習	2通3通	60	4	○			○			○	
合計				9科目				630単位時間(42単位)							

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復科）令和元年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			病理学概論	1. 病理学とは2. 疾病の一般3. 細胞傷害4. 循環傷害5. 進行性病変と細胞・組織の適応6. 炎症7. 免疫異常・ｱﾚﾙｷﾞｰ8. 腫瘍9. 先天性異常10. 病因	2通3通	75	5	○			○			○	
○			一般臨床医学	1. 診察概論2. 診察各論3. 3. 検査法4. 主要な疾患	2通3通	75	5	○			○			○	
○			外科学概論	1. 損傷2. 創傷3. 熱傷4. 炎症と感染症5. 腫瘍6. ショック7. 輸血･輸液8. 消毒と滅菌9. 手術10. 麻酔11. 移植と免疫12. 出血と止血13. 心肺蘇生法	2通3通	75	5	○			○			○	
○			整形外科学	1. 運動器の基礎知識2. 整形外科診察法3. 整形外科検査法4. 整形外科的治療法5. 骨･節損傷総論6. スポーツ整形外科概論7. リハビリテーション総論8. 疾患別各論9. 身体部位別各論	2通3通	90	6	○			○			○	
○			衛 生 学	1. 歴史2. 健康の概念3. 疾病予防と健康管理4. 感染症の予防5. 消毒6. 環境衛生7. 生活環境・食品衛生活動8. 母子保健9. 学校保健10. 産業保健11. 成人･高齢者保健12. 精神保健13. 地域保健と国際保健14. 衛生行政と保健医療の制度15. 医療の倫理と安全の確保16. 疫学	3通	45	3	○			○			○	
○			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	1. 概念と歴史2. リハビリテーション医学3. 基礎医学4. 評価と診断5. 治療6. 関連職種7. 実際	2通3通	60	4	○			○			○	
○			公衆衛生学	1. 歴史2. 健康の概念3. 疾病予防と健康管理4. 感染症の予防5. 消毒6. 環境衛生7. 生活環境・食品衛生活動8. 母子保健9. 学校保健10. 産業保健11. 成人･高齢者保健12. 精神保健13. 地域保健と国際保健14. 衛生行政と保健医療の制度15. 医療の倫理と安全の確保16. 疫学	2通	30	2	○			○			○	
○			関係法規	1. 総則2. 免許3. 試験4. 業務5. 施術所6. 雑則7. 罰則8. 指定登録機関及び指定試験機関9. 附則	1前2通	75	4	○			○			○	
○			柔 道	1. 柔道の基本動作を習得し実際に稽古に取り組み面白さやその醍醐味を体感する2. 基本を基に対人機能の向上を図ると共に個々のレベルにあった目標に向かって努力する3. 総括として実技の充実	123通	160	5	△		○	○		○	○	
○			社会保障制度	社会保障に関する関係法規等	2前	15	1	△		○	○		○	○	
合計				10科目											
								685単位時間(40単位)							

授業科目等の概要

（医療専門課程柔道整復科）令和元年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎柔道整復学	1. 運動器学2. 骨・関節損傷学基礎3. 軟部組織損傷学基礎4. 評価と施術学基礎	1通2通	240	16	○		△	○		○	○	
○			臨床柔道整復学	1. 上肢・下肢の損傷学2. 頭部の損傷学3. 体幹の損傷学4. 臨床総合学	123通	510	34	△		○	○		○	○	
○			柔道整復実技	1. 基本評価法2. 基本的治療法3. 臨床的治療法4. 総合柔道整復演習	123通	510	17	△		○	○		○	○	
○			臨床実習	臨床実習	123通	180	4			○	○	○	○	○	○
合計				3科目	1440単位時間(71単位)										
総合計				22科目	2755単位時間(153 単位)										

卒業要件及び履修方法

進級・卒業の認定について
１．進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得ならびに出欠状況等により教務会の議を経て校長が認める が、次の各項に該当する者は原級留置とする。
１）進級認定
教務会の議を経て校長が認可 する 。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。
（１）１年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者
（２）各授業の年間延欠課日数が全 授業 日数が30%を超えた者
（３）当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者
（４） 期日までに所定の学費を納入しない者
（５ ）その他校長が裁定した者

２）卒業認定
教務会の議を経て校長が認可 する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。
（１）１年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者
（２）各授業の年間延欠課日数が全 授業 日数の30%を超えた者
（３）卒業までにすべての単位を修得していない者
（４）公益財団法人 柔道整復研修試験財団 が実施している認定実技審査に合格していない者
（５）期日までに所定の学費を納入しない者）期日までに所定の学費を納入しない者
（６）その他校長が裁定した者）その他校長が裁定した者

授業期間等

１学年の学期区分	2期
１学期の授業期間	22週

（留意事項）
１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。